

スポーツの聖地づくりの一環として

「ちびっこマラソン・駅伝競走大会」を開催



開始の合図と同時に元気よくスタートする子どもたち

小学生が健脚を競う「ちびっこマラソン・駅伝競走大会」が3月、荻野運動公園で開催され、約460人が競技場内を駆け抜けました。

競技はマラソンと駅伝の部に分かれて実施。4人でたすきをつなぐ駅伝の部には26チームが参加し、選手たちは懸命にたすきをつないでゴールを目指していました。青空の下、力走する子どもたちにもたくさんのお客が声援を送りました。

駅伝の部で優勝したSCDアスリートクラブJr.の下楠潤さん(12・妻田西)は「昨年も出場したが2位だったので、優勝できてうれし。練習の成果を発揮ができた」と笑顔を見せました。

全国大会で優勝するなど活躍

ラグビー高校日本代表決定を報告

2023年度ラグビー高校日本代表のメンバーに、市内出身の中森真翔さんが選ばれ、山口市長に喜びを報告しました。

中森さんは愛甲小学校、厚木中学校の出身。小学4年生の時にラグビーを始め、高校3年生では全国高校ラグビーで優勝メンバーとして活躍しました。

中森さんは「ラグビーを始めた頃から代表の桜のジャージを着るのが夢だった。最終的には全年齢の代表に選ばれることが目標なのでこれからも努力を続け、将来的にはラグビーを楽しいと思ってくれる人が増えるようにしていきたい」と話しました。4月からは大学に進み、さらなる高みを目指します。



日本代表のジャージを着て市長を訪れた中森さん(左)



未来につながるあつぎへ

市制70周年を祝うキャッチフレーズが決定

2025年2月の市制施行70周年に向けた記念キャッチフレーズが「未来へ一歩つながる あつぎ70年」に決定しました。

考察したのは、市内の小中学校に勤める田熊圭さん(42・相模原市)。131点の応募から市制70周年記念事業実行委員会による審査と市民投票で選ばれました。

田熊さんは「『つながる』という言葉が普段から大事にしていて、子どもたちの未来につながってほしいという思いや、今と過去、人と人をつなぐことをイメージした。私も厚木のこともっと知り、子どもたちにも地域のことを好きでいてほしいと思ってる」と話しました。

市では5月15日までに、記念のキャッチフレーズと市のイメージに合ったロゴマークを募集しています。



「キャッチフレーズは授業の一環で子どもたちと一緒に考えた」と話す田熊さん(右)

2050年カーボンニュートラル実現を目指して

EVごみ収集車の2台目導入式典を開催

脱炭素社会を目指すため3月、電気エネルギーで走行するEVごみ収集車の2台目の運用をスタートしました。

車両は、市と三菱ふそうトラック・バス株式会社、新明和工業株式会社の3者が締結した「電気ごみ収集車の普及・促進に関する協定」に基づき導入。引き渡された車両は、車体をコンパクト化したことで狭い路地での収集が可能となるなど、より実用性の高い車両へと改良されました。自治体がEVごみ収集車を2台体制で運用するのは全国的にも珍しく、3月から実際に収集を始めます。

市では今後、2030年までに全ての公用車の電動化を目指すなど、カーボンニュートラルの達成に向けた取り組みを進めています。



式典には市職員や関係企業の役員約20人が出席

第13回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル(CN)とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。連載では、今日から挑戦できる取り組みを紹介します。

今月の挑戦 新たな技術を知ろう



市役所の玄関付近でもペロブスカイト太陽電池の実証実験を実施中

皆さんはペロブスカイト太陽電池をご存じですか？素材が折り曲げられるくらい薄くて軽いので、これまで設置できなかった場所での発電が期待されています。

他にも、持続可能な航空燃料の開発やガスの脱炭素化技術など、カーボンニュートラル実現に向けた技術開発は数多く実施され、日々進歩しています。技術革新に関心を持ちながら、今できることに取り組みしましょう。

CNプラットフォームでは、新たな技術を詳しく知れるページを公開しています。



環境政策課 ☎225-2749

「どんな宝物よりも子どもには遠く及ばない」。日本最古の和歌集・万葉集に収められた山上憶良の歌です。「子どもこそ尊い宝であること」を歌ったもので、市長として、3人の子どもを育てる親として、非常に共感できる言葉です。

私たちは社会の宝である子どもたち、そして子育て世帯を全力で支えていかなければなりません。4月からスタートした「小・中学校の給食費の無償化」は、市長就任時に掲げ

備を進めているところです。

4月からは市役所の組織も大きく変わります。妊娠から出産・子育てまでの一貫した相談支援体制を整えるため、母子保健と児童福祉部門が一体となった「こども家庭センター」を新たに設置し、切れ目のない支援と児童虐待の防止などに取り組んでいきます。次代を担う子どもたちを地域の中で健やかに育てていくため、皆さんと共に「子育て・教育で選ばれるまち」を目指していきます。



まち全体で子育てを応援するため市内の保育所を訪問

た8つの政策の一つです。経済的負担を軽減し、子どもたちの健やかな成長を支える食環境を整えていきます。さらに、快適な教育環境を提供するとともに、災害時の避難所強化のため、小・中学校の体育館に冷暖房を順次設置します。3年間で全校に行き渡るよう、準備を進めています。